

藻類・貝類養殖の普及促進

(ヒジキ関係, 全国豊かな海づくり協会, 漁村研究実践活動助成事業)

水産技術開発センター 企画研修部

【背景・目的】

本県の漁業は、資源の減少傾向、魚価の低迷、燃油・資材の高騰など、依然として厳しい経営環境にあり、漁業担い手の減少が続いている。

このため、沿岸漁場の高度利用や収益性の高い漁業の導入等について調査研究を進めるとともに、導入が可能な技術の実証試験を行うなど、生産現場への普及定着を進めることにより、魅力ある漁業の創出と漁業担い手の確保育成を図る。

【普及内容・特徴】

1 ヒジキ養殖技術の普及

- (1) 先進地の養殖技術を調査研究し、普及指導員等に情報提供した。
- (2) 県全体の養殖技術研修会を開催した。
- (3) 鹿児島湾地域における試験養殖を実施した。
- (4) センターにおいて、種苗の大量培養試験(2年目)を実施するとともに、北薩地区の種苗生産機関への技術指導を行った。

2 ワカメ種苗供給体制の再構築

- (1) 県内種苗供給業者の種苗生産・培養技術(止水式)を点検した。
- (2) センターにおいて、流水式の種苗生産・培養試験を実施した。

3 貝類養殖等の調査研究

貝類人工種苗の安定確保のためのルート開拓を行った。

【成果・活用】

1 ヒジキ養殖技術の普及

鹿児島湾の10漁協11漁場において、試験養殖を実施した結果、生産目標の10kg/mを達成した漁場もあったが、施設構造、養殖密度、収穫時期など、多くの課題が残った。

特に、今年度の試験では、サメハダコケムシのほか、新たにウミシバ類の付着が多くの漁場で見られた。

また、中国式の種苗培養試験(2年目)では、試験に供した培養基質の有効性を確認できたが、昨年度はみられなかったサメハダコケムシの付着がみられた。

2 ワカメ種苗供給体制の再構築

県内種苗供給業者に対して、技術の点検結果に基づく種苗生産・培養マニュアルを作成・配布し、翌年度に備えた。

3 貝類養殖等の調査研究

北薩地域の2漁場で、カキ類の試験養殖に着手した。



ヒジキ養殖試験（展開風景）



ヒジキ養殖試験（養殖ヒジキ）



ヒジキ種苗培養試験（海面培養）



ヒジキ種苗培養試験（ヒジキ種苗）



人工種苗に付着したサメハダコケムシ



養殖ヒジキに付着したウミシバ類